

株主のみなさまへ

# TOWA REPORT



山形県側から見る蔵王連峰 ※2010年3月撮影

## 第54期 事業のご報告

平成21年4月1日～平成22年3月31日



東和薬品株式会社

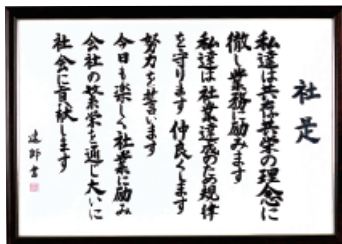


代表取締役社長  
吉田 逸郎

## About TOWA

### 当社の社是について —

当社の社是は、共存共栄の理念を柱とし、創業者の故吉田雄市社長(当時)が社員から募集した言葉をもとにして完成させたものです。現在、吉田逸郎社長の直筆による社是が全ての事業所に掲げられており、創業者が唱えた東和薬品で働く心構えを役員及び従業員一人ひとりが受け継いでいます。



## ごあいさつ

本格的なジェネリック医薬品時代を迎え、さらに「信頼される会社」を目指して、努力を重ねてまいります。

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

当社の第54期の事業のご報告(平成21年4月1日から平成22年3月31日)をお手元にお届けいたします。

国は、「平成24年度までに、後発医薬品の数量シェアを30%(現状から倍増)以上にする」という政府目標に向けて、後発医薬品使用促進のための環境整備を行っております。特に、平成22年4月には、「後発医薬品調剤体制加算」の見直しなど、これまで以上にインパクトのある使用促進策を導入し、今後、保険薬局での後発医薬品への代替が進むことが期待されています。当社といたしましては、なお一層の「安定供給」「品質確保」「情報提供」への取り組みを進め、本格的なジェネリック医薬品の時代に、信頼される会社となれるよう、努力を重ねることがなによりも重要であると考えております。

そのような中、中期経営計画の主要課題に向けた様々な取り組みの結果、薬局市場の拡大、大病院との直接取引による売上増、当社独自のRACTAB技術を駆使したアムロジピンOD錠「トワ」

の成長などにより、当期の業績は、ほぼ当初計画どおり順調に推移致しました。平成22年3月には、山形工場の建設が始まりました。平成24年3月の新工場稼働により、国内でも有数の生産体制が確立します。この投資は、当社の成長の礎と確信しておりますので、株主の皆様のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

当期の配当につきましては、当期業績がほぼ当初計画どおり進捗し、連結当期純利益も数年来順調に推移していることを踏まえ、株主の皆様のお応えするため、期末の配当金は1株当たり10円増配し、32.50円(中間期末1株当たり22.50円。年間1株当たり55.00円、配当性向20.5%)と致しました。

内部留保金につきましては、中長期的視点からの経営体質の強化、企業価値の増大を図るために、研究開発力の充実、生産能力向上・効率化のための設備投資、特に新工場の建設、営業体制の拡充・強化などに充てさせていただきたいと存じます。株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成22年6月

## ● 今期の東和薬品の概況

「中期経営計画」の最終年度に入りました。

計画を上回るペースで進捗。「信頼性の確立」を目指し、情報提供と安定供給に注力し、各市場のシェアを拡大するために、対応力の強化を推進しています。



▶ 詳しくは P.3 へ

ジェネリック医薬品の普及拡大に、継続的に取り組んでいます。

医療関係者向けのPR活動、セミナーを継続的に実施。記事広告や黒柳徹子さんを起用したCMなど、一般向けにも啓発活動を展開しています。



▶ 詳しくは P.6 へ

「内部統制システム」を整備しています。

「ミスを未然に防ぎ、発見したらどう対処するか」という視点のもと、コンプライアンス、セキュリティ、リスクマネジメント等の規程を制定しました。



▶ 詳しくは P.6 へ

「東和薬品グループ企業行動憲章」を制定しました。

社会から信頼と支持を得られる企業活動を行うため、創立60周年を前に企業行動憲章を、行動規範と併せて制定しました。



▶ 詳しくは P.7 へ

「山形工場プロジェクト」が、着実に進行しています。

10年3月には起工式を行い、建設工事に着手。国際標準に対応し、免震構造を採用した新工場は、2012年の操業を目指して工事が着実に進んでいます。



▶ 詳しくは P.8 へ

「売上高」「経常利益」とも、堅調に推移しています。

売上高は390億円（前連結会計年度比8.6%増）、営業利益は77億円（同20.9%増）、経常利益は74億円（同11.2%増）、当期純利益は46億円（同21.8%増）となりました。



▶ 詳しくは P.9 へ

「TOWA REPORTアンケート」をお願いしております。

より株主様とのコミュニケーションを深めるため、アンケートをお願いしております。同封のハガキにご記入いただき、ぜひご投函ください。



▶ 同封のハガキへ

# 「中期経営計画」最終年度へ向け、目標を上回る

中期経営計画2年目となった2009年度は、売上高390億円、営業利益77億円と、ともに目標を上回る結果に。吉田社長がこの1年の取り組みを総括しました。



**Q** 「中期経営計画」の進捗状況について、お聞かせください。

## 「信頼性の確立」を目指し、情報提供と安定供給に注力。

1つ目の取り組み課題である「信頼性の確立」については、まず当社製品について、迅速かつ的確に情報提供し、医療用医薬品メーカーとしての責任を確立することが信頼を得る第一歩と考えています。そこで2009年4月より、医療関係者様向け窓口を1本化した「**1** 学術部DIセンター」**1**を新設し、24時間受付、365日体制で対応することとしました。おかげさまで高い評価をいただいています。今後は学会などでの積極的な情報提供にも、今まで以上に力を入れていきたいと考えています。

信頼性を高めるためのもう一つの課題が、製品の安

### POINT を詳しく

#### **1** 学術部DIセンターの稼働

「必要とされる時に、必要な情報を、迅速かつ的確に提供する」を目的に、医療関係者からの問い合わせに対し、24時間受付365日対応を行っています。



## ペースで、進捗しています。

定供給です。当社では一般製剤については、大阪、岡山、山形第一の3つの工場生産していますが、万が一地震などで一つの工場がストップした場合でも、それ以外の工場バックアップできる、万全の安定供給体制を目指して取り組んでいます。



また2012年春に稼動予定の山形工場<sup>2</sup>では、日・米・欧の国際標準に対応、コスト削減にも十分に配慮した、最新鋭の工場として現在着工中です。

## 各市場のシェアを拡大するために、対応力の強化を推進。

2つ目の課題は、「診療所・中小病院・保険薬局市場の強化」です。中でも保険薬局は全国で約5万軒あり、今後のジェネリック医薬品普及の鍵を握る市場です。ただ

注文が小包装で頻回配送という傾向にあり、納品にMRが回っていると、本来のMR業務に支障をきたすことになります。そこで今年度中に、デリバリー専門要員<sup>3</sup>を約100名まで倍増する計画です。



また当社は大手卸を通さない、独自の直販方式をとっています。新薬販売を主体としたルートでは、伸びに限りがあるためですが、一方で大手卸と同等の供給体制を敷くことが安定供給面で重要です。今年4月には、5営業所を新設しましたが、



これは5年先、10年先の販売量の拡大を見据えた、全国販売網の強化<sup>4</sup>の一環であり、今後も必要に応じて新設していきたいと考えています。

### 2 山形工場プロジェクト

▶詳しくは P.8 へ



### 3 デリバリー専門要員の拡充

保険薬局様など小口配送への対応を中心に、要員を拡充。より確実な安定供給体制を敷くことが狙いです。

### 4 営業所の整備・拡充

09年12月には山形営業所、10年4月には滋賀・京都・福知山・高知・府中、5月には鳥取営業所での業務を開始しています。

## 製剤の付加価値が認められ、各賞を受賞。

3つ目の課題は、「製剤技術・製造技術の向上」です。当社が誇る製剤技術に「**RACTAB技術**」**5**があります。これは従来の口腔内崩壊錠（OD錠）が、口の中で崩壊しやすくするために硬度を上げられないという欠点を克服し、優れた崩壊性と錠剤硬度を満たした技術です。

この「RACTAB技術」が、**2010年度日本薬剤学会「旭化成創剤開発技術賞」**に選定**6**されました。昨年はこの「RACTAB技術」を採用した“**アムロジピンOD錠「トローワ」**”が第1回最優秀ジェネリック医薬品賞を受賞。引き続き今年も、国内初で液剤化に成功したことなどが認められ、



“**レボフロキサシン内用液「トローワ」**”が優秀ジェネリック医薬品奨励賞を受賞**7**しました。

今後も付加価値の高い、より患者さんや医療現場の方々に評価される製剤を、創出していきたいと考えています。

**Q** ジェネリック医薬品の、市場拡大を見据えた戦略をお教えてください。

## 調剤報酬改定により、保険薬局の動きが活発化。

政府は「2012年度にジェネリック医薬品の数量シェアを30%以上に」という目標達成に向けて、2008年度に実施した「後発医薬品調剤体制加算」を、今年度より「処方せんベース」から「数量ベース」に切り替えました。さらに加算点数を大幅に引き上げるなどの**調剤報酬の改定****8**を行い、ジェネリック医薬品普及のための、さらなる施策を打ち出しています。

これは主に薬局向けのインセンティブであり、この影響により、当社の取引先からも今までよりも注文量が増え、新規の保険薬局との取引も増加しています。今期の計画達成に向け、確かな手応えを感じています。しかし業界全体を見ると、政府目標の数量シェア30%達成は、少し難しいというのが今のところの感触です。

### 5 RACTAB技術

RACTAB:Rapid and Comfortable Tabletsのこと。当社が独自に開発した、口腔内崩壊錠の製剤技術を指します。



### 6 2010年度日本薬剤学会「旭化成創剤開発技術賞」受賞

当社の新規口腔内崩壊錠（RACTAB）の技術に対して、社団法人日本薬剤学会により、2010年度日本薬剤学会「旭化成創剤開発技術賞」に選定されました。



### 7 「2010年優秀ジェネリック医薬品奨励賞」受賞

当社の「レボフロキサシン内用液25mg/mL「トローワ」」が、NPO法人ジェネリック医薬品協議会により、優秀ジェネリック医薬品奨励賞に選定されました。



## MRの活動や講演会等、地道な啓発活動を継続。

当社は今までも、ジェネリック医薬品の普及に関して努力してきましたが、やはり今後もMRが医療現場で地道に情報提供・収集活動を行い、信頼を得ていくことが最も大切なことだと考えています。また医療関係者を対象にした学術セミナー<sup>9</sup>なども、長年全国各地で頻繁に共催しています。

マスクミを通して一般の方々へも、啓発活動を行っています。日本経済新聞ではここ数年定期的に、私と有識者の方との対談記事広告を掲載<sup>10</sup>し、有識者にジェネリック医薬品の必要性を説いていただいています。また、当社のCMには当初から黒柳徹子さんに出演<sup>11</sup>いただいています。黒柳さんは、社会貢献活動や福祉活動に力を入れておられ、ユニセフ親善大使としても活躍されていますが、当社の姿勢にご理解いただき、特別にご出演していただいています。



**Q** 社内の統制システムの整備について、お聞かせください。

## 今後の組織拡大を見据え、内部統制システムを整備。

5年先、10年先の組織づくりを考えた時に、より効率的な業務を行い、すべてのステークホルダーから信頼される会社、企業価値を高め続けられる会社であるために必要な体制づくりをしています。「ミス未発生」を防ぎ、起こった場合どう対処するかという意識を強くすることが重要だと思っています。

例えば「東和薬品グループ企業行動憲章」<sup>12</sup>「コンプライアンス基本規程」「情報セキュリティポリシー」「リスクマネジメント基本規程」「関係会社管理規程」などを設定。社内に各委員会なども設け、今後活性化していく予定です。

来年度は会社創立60周年となり、経営理念もこれを機に現在見直しているところです。これから先の会社の姿を見据えて、わかりやすい理念を創りあげたいと思っています。

### 8 調剤報酬の改定

薬局での後発医薬品の調剤体制加算が、処方せんベースから数量ベースに改定。数量ベースで20%、25%、30%以上の3段階での加算になりました。

### 9 医療関係者向けの普及活動

「日本ジェネリック医薬品学会第3回学術大会」「日本薬剤師会学術大会」「日本医療薬学会年会」など、ポスター発表・セミナーを継続的に開催しています。

### 10 日経新聞での対談記事

09年4月3日には元三重県知事の北川正恭氏、10年1月1日には日本総合研究所の高橋進氏との対談記事が掲載。日本の医療問題とジェネリック医薬品の将来について、話し合いました。



### 11 黒柳徹子さんのCM起用

今年で7年目に入る黒柳さんとのお付き合い。元々CMには出られない方ですが、薬を通じて社会貢献している当社の姿勢にご理解いただき、特別にご出演していただいています。

### 12 「東和薬品グループ企業行動憲章」の制定

▶ 詳しくは P.7 へ

## 「東和薬品グループ企業行動憲章」を制定しました。

社会から信頼と支持を得られる企業活動を行うために制定。この憲章に基づいた一人ひとりの責任ある行動が、当社グループの健全かつ持続的な発展を可能にすると考えています。

### 東和薬品 グループ企業 行動憲章

東和薬品グループは、優れたジェネリック医薬品の提供を通じて、人々の健康と福祉、医療費の抑制に貢献します。また、社会から信頼と支持を得られる正しい企業活動を行うため、高い倫理観と社会的良識をもって、右記の原則に基づき行動します。

#### 1、信頼される高品質な ジェネリック医薬品の提供

医療ニーズを反映した高品質で有用なジェネリック医薬品を提供し、患者さんや医療関係者の期待と信頼に応えます。

#### 2、健全な企業活動の 推進

法令や業界自主規範等を遵守し、公正かつ自由な競争に基づく健全な取引を行います。

#### 3、ステークホルダー への情報開示

患者さん、医療関係者、取引先、株主・投資家、地域社会、従業員等のステークホルダーに対し、適時・適切に情報を開示します。

#### 4、働きやすい職場、 人権の尊重

堅実な社風と規律を重んじ、誠実に職務に励むとともに、変革に果敢にチャレンジする姿勢と社内融和の精神を共有します。また、一人ひとりの人権が尊重され、個性と能力が十分に発揮できる生き生きとした職場づくりに努めます。

#### 5、良き企業市民としての 社会的責任

地球環境に対する負荷の軽減、地域社会との共生、社会貢献活動への支援など、企業の社会的責務を積極的に果たすとともに、政治・行政とは健全な関係を維持します。また、反社会的勢力とは一切関係をもちません。

## 「レボフロキサシン内用液」が、優秀ジェネリック 医薬品奨励賞に選定されました。

NPO法人ジェネリック医薬品協議会により、「レボフロキサシン内用液25mg/mL「トーワ）」が受賞。国内初の液剤化に成功した点や、嚥下を容易にするために流動食程度の粘度にした点など、患者さんへのきめ細かい配慮をし、服用性を高めるという目的が達成されていると評価されました。





# 山形県上山市に建築中の、国際標準に対応した「新工場」をご紹介します。



常務取締役  
生産本部長兼  
新工場建設室長  
**播磨 武**

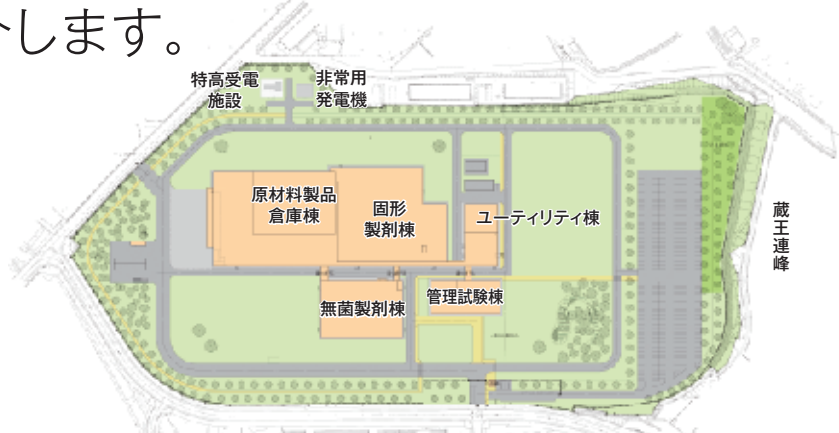
## PROJECT SCHEDULE

- **基本構想** (07年10月~08年3月)  
・用地、スケジュール  
・基本コンセプト、生産規模の決定
- **概念設計** (08年4月~09年1月)  
・グランドデザイン、設計コンセプト  
・建築関係の仕様等の決定
- **基本・詳細設計** (09年3月~12月)  
・建物の大きさやレイアウト、  
生産設備や空調等の仕様決定

- **建築工事** (10年3月~11年8月)  
10年3月10日、起工式が行われました。



- **生産設備据付、IQ<sup>\*</sup>、OQ<sup>\*</sup>** (11年3月~11年10月)  
※IQ：設備据付時適格性評価  
※OQ：運転時適格性評価
- **PQ<sup>\*</sup>、PV<sup>\*</sup>、実生産開始** (11年10月~)  
※PQ：稼働性能適格性評価  
※PV：予測的バリデーション



### 山形工場コンセプト

- 無菌製剤と固形製剤の一般および高活性製剤<sup>\*</sup>を製造する工場
- 効率的な生産機能とコスト競争力を持つ工場
- 国際標準対応で信頼される品質の製品を製造する工場
- 人・地域・環境に配慮した工場
- 将来の拡張性を考慮した工場

<sup>\*</sup>「高活性製剤」とは、ごく微量で薬理活性のある薬物を含む製剤のことを言います。

### 国際標準対応の設備で、信頼される品質の製品を製造します。

当社ではさらなる「信頼性の確立」のために、競争力のあるコストで、高品質な製品の安定供給を目指しています。山形工場の基本コンセプトは日・米・欧三極の基準を満たした「国際標準」。最新の製造設備や設計を導入し、将来的には新工場の基準を大阪、岡山工場に水平展開していく予定です。2012年春予定の稼働後は、3工場での製造品目を分担し、製造の効率化と設備コストの削減を行います。

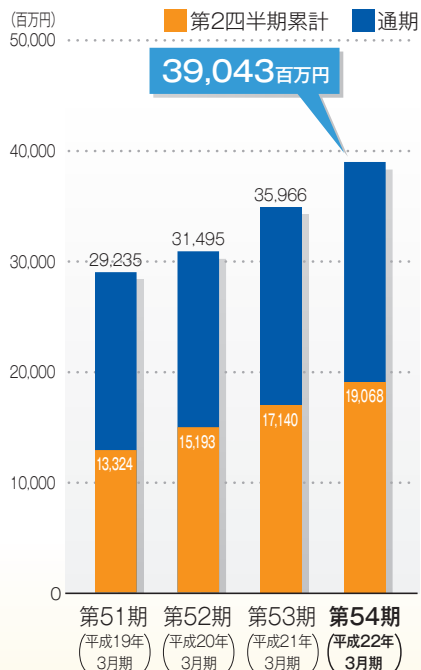
### 免震構造や新たな試みを盛り込んだ、先進の工場です。

山形工場には、注射剤などの無菌製剤の製造を集約します。生産拠点が1カ所になるため、震度7クラスの地震に備えた免震構造を採用し、安定供給を目指しています。高活性製剤を製造するために何重もの封じ込め対策をとり、従業員の健康を守っています。また、人や環境にも配慮した町のシンボルとなる工場を目指し、ピオトープや桜並木を設ける計画もしています。

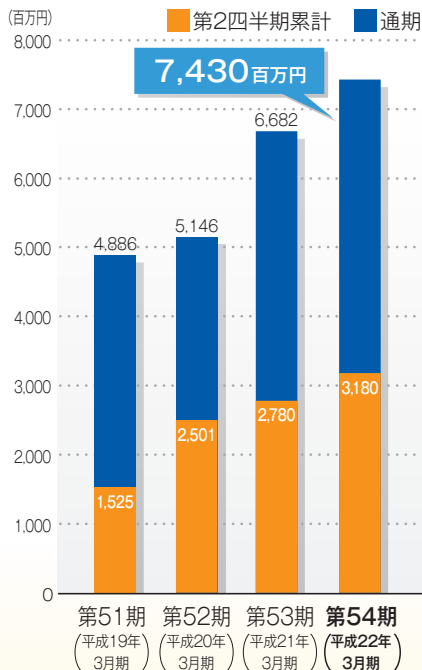
# 業績の概要

## 業績ハイライト(連結)

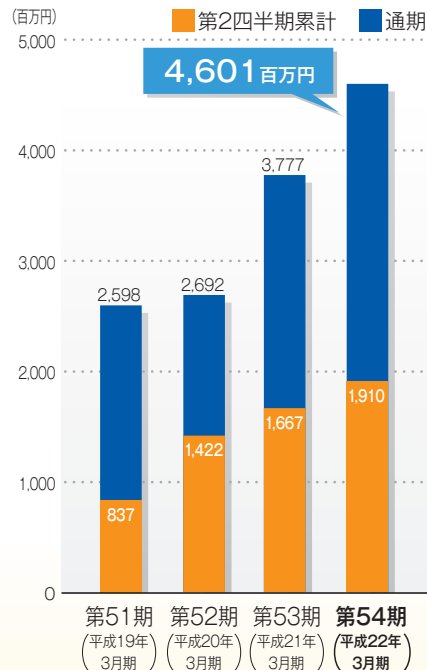
### 売上高



### 経常利益



### 当期(四半期)純利益



## 業績の概況

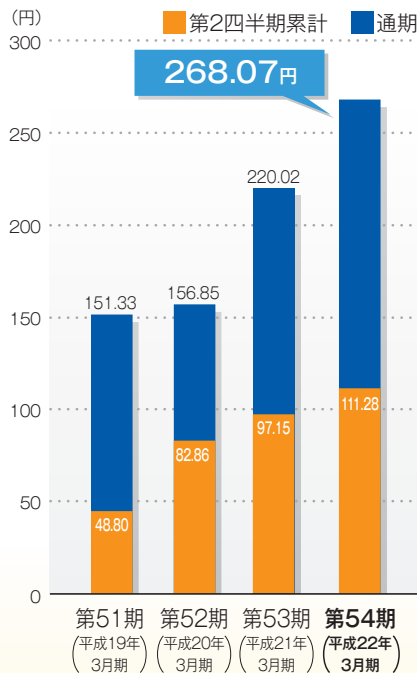
医療用医薬品業界では、今年度は薬価改定もなく、制度面での大きな環境変化はありませんでしたが、平成22年4月の診療報酬改定で、新薬創出・適応外薬解消等促進加算の導入や、薬局の調剤基本料における後発医薬品調剤体制加算の見直しなどが実施されることになりました。新薬の適正な評価と後発医薬品の使用促進を同時に進めるとい

う政府の方針が具体化され、医薬品業界も、新薬を継続的に開発できる企業と、高品質のジェネリック医薬品を安定的に供給できる企業しか勝ち残れない時代になろうとしています。

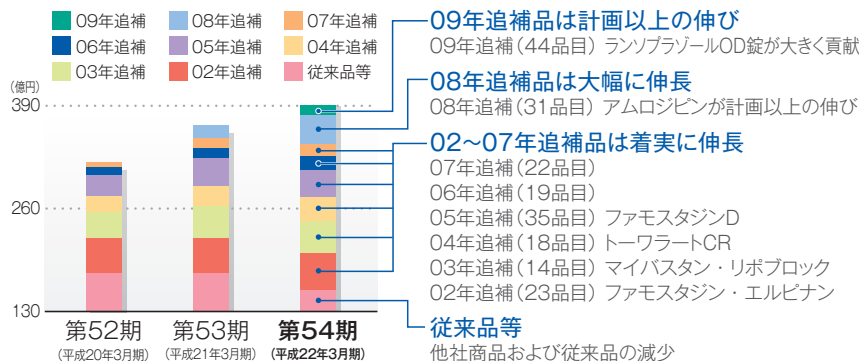
このような中、当社グループは、ジェネリック医薬品の需要拡大が見込まれる保険薬局、病院市場で取引き軒数の拡大を目指した営業活動を展開しました。

また、引き続き適正価格販売を維持し、血管拡張剤アムロジピンOD錠「トール」をはじめとする主力品目の販売拡大に努めました。さらに、5月には、当社独自のRACTAB技術を用いたランソプラゾールOD錠「トール」など、12成分14品目を、11月には、サルボグレラート塩酸塩錠「トール」など、18成分30品目を新発売いたしました。

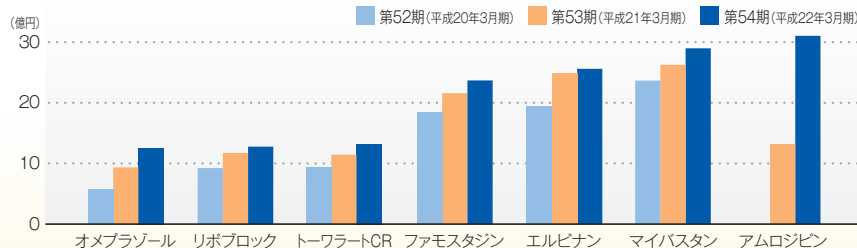
## 1株当たり当期(四半期)純利益



## 追補品売上高推移(個別)



## 主要品目の売上高推移(個別)



この結果、今年度の新発売品の売上1,392百万円を含め、前連結会計年度比で3,076百万円売上が増加しました。

以上により、売上高は39,043百万円(前連結会計年度比8.6%増)、営業利益7,744百万円(同20.9%増)、経常利益は7,430百万円(同11.2%増)、当期純利益は4,601百万円(同21.8%増)となりました。

## 次期の見通し

次期の見通しにつきましては、平成22年4月に実施された薬局の調剤基本料における後発医薬品調剤体制加算の見直しなどにより、引き続き薬局市場を中心に後発医薬品の使用が促進されると思われま

当社グループといたしましては、従来通り「安定供給」「品質確保」「情報提供」への取り組み強化を継続するとともに、「付加価値製剤の追求」「適正価格販売」「直販・代理店

体制」といった独自の戦略により、需要拡大が見込まれる保険薬局及び病院における新規開拓・新規納品の拡大を図ってまいります。

以上により、次連結会計年度は、売上高43,200百万円(前連結会計年度比10.6%増)、営業利益8,900百万円(同14.9%増)、経常利益8,800百万円(同18.4%増)、当期純利益5,300百万円(同15.2%増)を見込んでおります。

# 連結財務諸表(要約)

## 連結貸借対照表

(単位:百万円)

科目	前期 (平成21年 3月31日現在)	当期 (平成22年 3月31日現在)	増減
<b>(資産の部)</b>			
<b>流動資産</b>			
現金及び預金	2,912	10,941	8,028
受取手形及び売掛金	13,902	14,726	824
有価証券	512	—	△512
たな卸資産	9,435	10,841	1,405
スワップ資産	329	51	△277
その他	1,358	1,466	108
貸倒引当金	△40	△343	△302
<b>流動資産合計</b>	<b>28,410</b>	<b>37,684</b>	<b>9,274</b>
<b>固定資産</b>			
建物及び構築物	7,612	7,277	△335
土地	5,689	6,676	986
<b>① 建設仮勘定</b>	<b>355</b>	<b>3,261</b>	<b>2,905</b>
その他	2,741	2,487	△254
<b>有形固定資産合計</b>	<b>16,399</b>	<b>19,702</b>	<b>3,303</b>
<b>無形固定資産合計</b>	<b>229</b>	<b>369</b>	<b>139</b>
投資有価証券	2,296	2,014	△281
その他	930	797	△132
貸倒引当金	△27	△63	△36
<b>投資その他の資産合計</b>	<b>3,198</b>	<b>2,748</b>	<b>△450</b>
<b>固定資産合計</b>	<b>19,828</b>	<b>22,820</b>	<b>2,992</b>
<b>資産合計</b>	<b>48,238</b>	<b>60,504</b>	<b>12,266</b>

### POINT 1

#### 建設仮勘定

山形工場の建設工事を開始したことにより、増加しました。

(単位:百万円)

科目	前期 (平成21年 3月31日現在)	当期 (平成22年 3月31日現在)	増減
<b>(負債の部)</b>			
<b>流動負債</b>			
支払手形及び買掛金	4,330	5,557	1,227
未払金	2,059	2,135	75
未払法人税等	1,698	1,887	189
<b>② その他</b>	<b>1,153</b>	<b>3,979</b>	<b>2,826</b>
<b>流動負債合計</b>	<b>9,242</b>	<b>13,560</b>	<b>4,317</b>
<b>固定負債</b>			
<b>③ 長期借入金</b>	<b>—</b>	<b>4,000</b>	<b>4,000</b>
退職給付引当金	65	137	72
その他	885	861	△23
<b>固定負債合計</b>	<b>950</b>	<b>4,998</b>	<b>4,048</b>
<b>負債合計</b>	<b>10,193</b>	<b>18,559</b>	<b>8,366</b>
<b>(純資産の部)</b>			
<b>株主資本</b>			
資本金	4,717	4,717	—
資本剰余金	7,870	7,870	—
利益剰余金	25,514	29,343	3,829
自己株式	△9	△10	△1
<b>株主資本合計</b>	<b>38,092</b>	<b>41,920</b>	<b>3,828</b>
<b>その他有価証券評価差額金</b>	<b>△47</b>	<b>24</b>	<b>71</b>
<b>純資産合計</b>	<b>38,045</b>	<b>41,945</b>	<b>3,899</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>48,238</b>	<b>60,504</b>	<b>12,266</b>

### POINT 2

#### その他

山形工場建設工事の開始に伴い、当該設備関係の支払債務が計上されました。

### POINT 3

#### 長期借入金

山形工場の設備投資資金として借り入れたものです。

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

## 連結損益計算書

(単位:百万円)

科目	前期 (平成20年4月1日から 平成21年3月31日まで)	当期 (平成21年4月1日から 平成22年3月31日まで)	増減
④ 売上高	35,966	39,043	3,076
売上原価	18,345	18,793	448
売上総利益	17,620	20,249	2,628
⑤ 販売費及び一般管理費	11,212	12,504	1,291
営業利益	6,408	7,744	1,336
営業外収益	325	206	△119
⑥ 営業外費用	51	520	469
経常利益	6,682	7,430	747
特別利益	307	0	△307
特別損失	746	96	△649
税金等調整前当期純利益	6,244	7,334	1,090
法人税、住民税及び事業税	2,503	3,019	516
法人税等調整額	△36	△286	△250
当期純利益	3,777	4,601	824

### POINT4

#### 売上高／売上原価／売上総利益

適正価格販売を維持し、保険薬局や病院市場で取り引き軒数の拡大を目指した営業活動を展開しました。また、主力品目の販売拡大に努めたことや、新製品の投入などにより、売上高は前年同期に比べ、3,076百万円(+8.6%)の増加となりました。売上原価は448百万円(+2.4%)増加し、売上総利益は2,628百万円(+14.9%)の増加となりました。

## 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科目	前期 (平成20年4月1日から 平成21年3月31日まで)	当期 (平成21年4月1日から 平成22年3月31日まで)	増減
⑦ 営業活動によるキャッシュ・フロー	4,471	6,557	2,086
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,475	△7,280	△4,805
財務活動によるキャッシュ・フロー	△772	3,222	3,994
現金及び現金同等物に係る換算差額	30	16	△13
現金及び現金同等物の増減額	1,254	2,516	1,262
現金及び現金同等物の期首残高	2,171	3,425	1,254
現金及び現金同等物の期末残高	3,425	5,941	2,516

### POINT5

#### 販売費及び一般管理費

研究開発費は、通常の新製品開発に加え、付加価値製剤の開発や前倒し開発着手などにより、2,565百万円となり、前年同期に比べ245百万円増加しました。また、新卒・中途者の積極採用のため人件費は335百万円増加し、販管費は1,291百万円増加しました。

### POINT6

#### 営業外費用

前期末に比べ、4円83銭の円高になったことに伴い、277百万円のスワップ評価損を計上しました。

### POINT7

#### 営業活動によるキャッシュ・フロー

税金等調整前当期純利益や仕入債務の増加によるものです。

## 連結株主資本等変動計算書

(平成21年4月1日から平成22年3月31日まで)

(単位:百万円)

	株主資本					その他有価証券 評価差額金	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計		
平成21年3月31日 残高	4,717	7,870	25,514	△9	38,092	△47	38,045
連結会計期間中の変動額							
剰余金の配当			△772		△772		△772
当期純利益			4,601		4,601		4,601
自己株式の取得				△1	△1		△1
株主資本以外の項目						71	71
連結会計期間中の変動額合計	—	—	3,829	△1	3,828	71	3,899
平成22年3月31日 残高	4,717	7,870	29,343	△10	41,920	24	41,945

(注)記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

# 個別財務諸表(要約)

## 貸借対照表

(単位:百万円)

科目	前期 平成21年 3月31日現在	当期 平成22年 3月31日現在	増減
<b>(資産の部)</b>			
<b>流動資産</b>			
現金及び預金	2,778	10,775	7,996
受取手形	9,361	9,191	△170
売掛金	3,975	4,975	1,000
有価証券	512	—	△512
たな卸資産	9,289	10,668	1,378
スワップ資産	329	51	△277
その他	1,929	1,399	106
貸倒引当金	△36	△339	△302
<b>流動資産合計</b>	<b>27,503</b>	<b>36,722</b>	<b>9,218</b>
<b>固定資産</b>			
建物	6,970	6,671	△299
土地	5,566	6,552	986
建設仮勘定	341	3,261	2,919
その他	2,646	2,390	△255
<b>有形固定資産合計</b>	<b>15,524</b>	<b>18,876</b>	<b>3,351</b>
<b>無形固定資産合計</b>	<b>227</b>	<b>366</b>	<b>139</b>
投資有価証券	2,296	2,014	△281
その他	1,939	1,713	△225
貸倒引当金	△27	△63	△36
<b>投資その他の資産合計</b>	<b>4,207</b>	<b>3,664</b>	<b>△543</b>
<b>固定資産合計</b>	<b>19,959</b>	<b>22,907</b>	<b>2,947</b>
<b>資産合計</b>	<b>47,462</b>	<b>59,629</b>	<b>12,166</b>

(単位:百万円)

科目	前期 平成21年 3月31日現在	当期 平成22年 3月31日現在	増減
<b>(負債の部)</b>			
<b>流動負債</b>			
支払手形	776	1,068	291
買掛金	3,449	4,352	902
未払金	1,992	2,051	59
未払法人税等	1,675	1,826	150
その他	975	3,881	2,906
<b>流動負債合計</b>	<b>8,869</b>	<b>13,180</b>	<b>4,311</b>
<b>固定負債</b>			
長期借入金	—	4,000	4,000
退職給付引当金	—	62	62
その他	875	844	△30
<b>固定負債合計</b>	<b>875</b>	<b>4,907</b>	<b>4,031</b>
<b>負債合計</b>	<b>9,745</b>	<b>18,088</b>	<b>8,343</b>
<b>(純資産の部)</b>			
<b>株主資本</b>			
資本金	4,717	4,717	—
資本剰余金	7,870	7,870	—
利益剰余金	25,186	28,938	3,752
自己株式	△9	△10	△1
<b>株主資本合計</b>	<b>37,764</b>	<b>41,516</b>	<b>3,751</b>
<b>その他有価証券評価差額金</b>	<b>△47</b>	<b>24</b>	<b>71</b>
<b>純資産合計</b>	<b>37,717</b>	<b>41,540</b>	<b>3,823</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>47,462</b>	<b>59,629</b>	<b>12,166</b>

## 損益計算書

(単位:百万円)

科目	前期 平成21年4月1日から 平成21年3月31日まで	当期 平成21年4月1日から 平成22年3月31日まで	増減
<b>売上高</b>	<b>34,800</b>	<b>37,836</b>	<b>3,036</b>
売上原価	17,778	18,205	426
<b>売上総利益</b>	<b>17,021</b>	<b>19,631</b>	<b>2,609</b>
販売費及び一般管理費	10,784	12,049	1,265
<b>営業利益</b>	<b>6,237</b>	<b>7,581</b>	<b>1,344</b>
営業外収益	337	213	△123
営業外費用	50	522	472
<b>経常利益</b>	<b>6,524</b>	<b>7,272</b>	<b>748</b>
特別利益	307	0	△307
特別損失	735	76	△659
<b>税引前当期純利益</b>	<b>6,096</b>	<b>7,196</b>	<b>1,100</b>
法人税、住民税及び事業税	2,433	2,933	500
法人税等調整額	△33	△261	△228
<b>当期純利益</b>	<b>3,696</b>	<b>4,525</b>	<b>828</b>

## 株主資本等変動計算書

(平成21年4月1日から平成22年3月31日まで)

(単位:百万円)

	資本金	資本剰余金	利益準備金	その他利益剰余金			利益剰余金 合計	自己株式	株主資本 合計	その他有価証券 評価差額金	純資産合計
				特別償却準備金	別途積立金	繰越利益剰余金					
<b>平成21年3月31日 残高</b>	<b>4,717</b>	<b>7,870</b>	<b>399</b>	<b>48</b>	<b>20,985</b>	<b>3,752</b>	<b>25,186</b>	<b>△9</b>	<b>37,764</b>	<b>△47</b>	<b>37,717</b>
<b>事業年度中の変動額</b>											
特別償却準備金の積立				2		△2	—		—		—
特別償却準備金の取崩し				△11		11	—		—		—
別途積立金の積立					2,900	△2,900	—		—		—
剰余金の配当						△772	△772		△772		△772
当期純利益						4,525	4,525		4,525		4,525
自己株式の取得								△1	△1		△1
株主資本以外の項目										71	71
<b>事業年度中の変動額合計</b>	<b>—</b>	<b>—</b>	<b>—</b>	<b>△8</b>	<b>2,900</b>	<b>861</b>	<b>3,752</b>	<b>△1</b>	<b>3,751</b>	<b>71</b>	<b>3,823</b>
<b>平成22年3月31日 残高</b>	<b>4,717</b>	<b>7,870</b>	<b>399</b>	<b>39</b>	<b>23,885</b>	<b>4,614</b>	<b>28,938</b>	<b>△10</b>	<b>41,516</b>	<b>24</b>	<b>41,540</b>

(注)記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

# 会社の概況と株式の状況 (平成22年3月31日現在)

## 会社概要

社名	東和薬品株式会社
本社	〒571-8580 大阪府門真市新橋町2-11 TEL (06) 6900-9100 (代表)
代表者	代表取締役社長 吉田 逸郎
創業	昭和26年6月
設立	昭和32年4月
上場取引所	東京証券取引所市場第一部 (証券コード:4553)
資本金	47億1,770万円
事業内容	医療用医薬品の製造・販売 自社製品 484品目
従業員数	1,249名
取引銀行	三菱東京UFJ銀行 門真支店 みずほ銀行 守口支店 三菱UFJ信託銀行 大阪支店
研究所	中央研究所 製剤研究所
工場	大阪工場 岡山工場 山形工場 (現:山形第一工場)
子会社	ジェイドルフ製薬株式会社 (医薬品製造販売)

## 株式の状況

発行可能株式総数	49,000,000株
発行済株式総数	17,172,000株
1単元の株式数	100株
株主数	4,593名

## 大株主一覧 (上位10名)

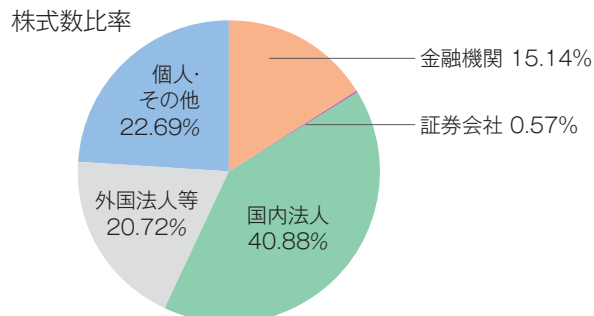
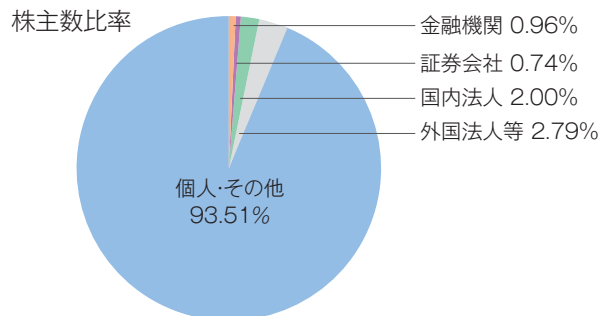
株主名	持株数	出資比率
(株) 吉田事務所	4,527千株	26.37%
(有) 吉田興産	2,000	11.65
吉田 逸郎	856	4.98
日本トラスティ・サービス信託銀行(株) (信託口)	648	3.77
ゴールドマン・サックス・アンド・カンパニー・レギュラーアカウント	594	3.46
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー 505044	474	2.76
ジェーピー モルガン チェース バンク 385078	373	2.17
東和薬品共栄会	370	2.16
ピクテアンドシーヨーロッパエスエー	264	1.54
日本マスタートラスト信託銀行(株) (信託口)	264	1.54

## 取締役及び監査役 (平成22年6月25日現在)

代表取締役社長	吉田 逸郎	常勤監査役	皆木 武久
常務取締役	播磨 武 <small>生産本部長 兼新工場建設室長</small>	監査役	山田 啓三郎
常務取締役	大澤 孝 <small>研究開発本部長</small>	監査役	森野 實彦 <small>弁護士</small>
取締役	藤本 正義 <small>営業本部長</small>	監査役	辻 弘 <small>税理士</small>
取締役	藪下 啓二 <small>管理本部長 兼総務部長</small>		
取締役	西川 義明 <small>企画本部長 兼経営企画部長</small>		
取締役	野口 豪 <small>信頼性保証本部長</small>		

※は会社法 第2条 第16号に定める  
社外監査役です。

## 株主分布状況



# 株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで  
定時株主総会 6月に開催  
剰余金の配当の基準日 3月31日、9月30日  
1単元の株式数 100株  
公告掲載方法 電子公告によって行います。  
<http://www.towayakuhin.co.jp/ir/koukoku.html>  
但し、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

株主名簿管理人ならびに  
特別口座の口座管理機関 東京都千代田区丸の内1丁目4番5号  
三菱UFJ信託銀行株式会社

同事務取扱場所 〒541-8502  
(お問い合わせ先) 大阪市中央区伏見町3丁目6番3号  
三菱UFJ信託銀行株式会社  
大阪証券代行部  
電話:0120-094-777(通話料無料)

## ◎住所変更、単元未満株式の買取等のお申出先について

口座を開設されている証券会社等にお申出ください。なお、特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、特別口座の口座管理機関である三菱UFJ信託銀行株式会社にお問い合わせください。

## ◎未払配当金の支払について

株主名簿管理人である三菱UFJ信託銀行株式会社にお申し付けください。

## ◎株式お手続き用紙のご請求(24時間受付)

三菱UFJ信託銀行株式会社  
本店証券代行部 電話:0120-244-479(通話料無料)  
大阪証券代行部 電話:0120-684-479(通話料無料)  
インターネットホームページ <http://www.tr.mufj.jp/daikou/>

## ホームページのご案内 <http://www.towayakuhin.co.jp>

当社のホームページでは、最新のトピックスをはじめ、企業情報や財務情報などの、株主・投資家の皆様に役立つ情報も積極的に開示しております。ぜひご覧ください。



## くすりのあした研究所



黒柳徹子さんからのメッセージやテレビCM、ジェネリックに関するコンテンツを掲載しています。

## 医療関係者の皆様へ

製品情報も充実しています。

## 株主・投資家の皆様へ



- 業績・財務ハイライト
- IRライブラリー
- 電子公告
- IRカレンダー
- 株式事務情報



「TOWA REPORT アンケート」にご協力賜りますよう、お願いいたします。

(同封のハガキにご記入いただき、ご投函ください。切手は不要です。)



## ◎見直しに関する注意事項

当報告書の記載内容のうち、歴史的事実でないものは将来に関する見直し及び計画に基づいた将来予測です。これらの将来予測には、リスクや不確定な要素などの要因が含まれており、実際の成果や業績などは記載の見直しとは異なる場合がございます。



再生紙(古紙配合率100%)、大豆油インキを使用しています。



東和薬品株式会社

〒571-8580 大阪府門真市新橋町2番11号

TEL:06-6900-9100(代表)

<http://www.towayakuhin.co.jp>

皆様からのアクセスをお待ちしております。